

Kiko

コペンハーゲン

気候ネットワーク

〒604-8124 京都府京都市中京区高倉通四条上ル高倉ビル305 Tel: 075-254-1011 / Fax: 075-254-1012
 〒102-0083 東京都千代田区麹町2-7-3 半蔵門カードビル2F Tel: 03-3263-9210 / Fax: 03-3263-9463
 E-mail: kyoto@kikonet.org (京都) tokyo@kikonet.org (東京) URL: http://www.kikonet.org

気候ネットワークは、地球温暖化対策に取り組む市民のためのネットワークです。

「Kiko」は、温暖化問題の国際交渉の状況を伝えるための会期内、会場からの通信です。

COP15/COPMOP5、コペンハーゲンで始まる

12月7日からコペンハーゲンで、最終的な合意に向けた、2013年以降の次期枠組み交渉が開幕した。

コペンハーゲンの町では、各広場でNGOの展示がなされ、カフェでもフードマイレージを意識した“Climate Food”がメニューに登場するなど、一般市民の間にもCOP15を歓迎する雰囲気が盛り上がっている。

今回は、過去最多数の24,000人が世界中から参加するといわれているため、参加するにもいつもと勝手が違う。

通常は当日の朝に登録をすることができるが、今回は登録人数が多いことから、会議初日の午前中は、政府代表者とメディアの登録を優先した。

そのため、初日前夜にコペンハーゲンに到着したNGO関係者は、会議初日の正午まで待たなければならない羽目に。結果、会場近くの駅前では、氷つくような気温の中、大勢の人が会場からテント、さらには道路にまであふれた。

会場のゲートから続く人の列は3~4人並びで約500メートル。ようやく屋根のあるテントに辿りついたのは3時間半後、テントから屋内に入ったのは30分後。セキュリティチェックを終え、ようやくIDカードを入手したときには4時間半がたっていたというありようだ。

そんな苦勞をして入った会場内は、とても広い。会議から会議へ、コンピュータや書類をもって、長い距離を歩く。毎日がちょっとしたエクササイズになりそう。

また、無線LANが会場のあらゆる場所で使え、食事も温かいものからスナック類など様々なメニューが選べ、会議場の外で食べるよりリーズナブルな値段で提供されているのは心強い。

さて、今回の会議では、以下の6つの会議が開催される。

1. 気候変動枠組条約締約国会議 (COP)
2. 京都議定書締約国会合 (COP/CMP)
3. 実施に関する補助機関会合 (SBI)
4. 科学的、技術的助言に関する補助機関会合 (SBSTA)
5. 条約の下での特別作業部会 (条約AWG)
6. 議定書の下での特別作業部会 (議定書AWG)

最も注目を集めている、次期枠組みに関する交渉は、条約AWGと議定書AWGで行われる。第2週の半ばには、それぞれCOP、COP/CMPに報告するスケジュールとなっている。

初日のハイライト

午後開催された条約AWGの全体会合では、米国と中国が中期の削減数値について言及した。

米国は、現在議会で議論されている法案にある2025年までに2005年比で30%削減、2030年までに42%削減を示し、中国は、少し前に発表した2020年までに2005年比でGDP当たり40~45%削減することを交渉の場で正式に発表した。

資金についても、EUとアンブレラグループから、2012年には100億ドルくらいの拠出をするコンセンサスができてつあるという見解が示された。中期の削減目標、資金の金額が、今後の交渉の中で注目すべきポイントとなりそうだ。

日本政府の発言の後、マイケルザミット・クチャー議長が、京都會議(COP3)の大木浩元議長を紹介。それを受けた大木氏は、「京都で示した世界の意思をここコペンハーゲンでも再度示す必要がある」と述べ、京都からコペンへとバトンを渡した。

若者(ユース)も参加

12月5日(土)6日(日)の2日間、コペンハーゲン大学でConference of Youth(COY)が開催された。COYは、世界中の若者(ユース)が意見交換・情報交換を行い、COPでの協力関係を築く場で、今年で5回目の開催となる。今年は特に参加者が多く、100以上の国から1000人以上の若者が集まった。Asian youth meetingでは、台湾・インドネシア・中国・シンガポール・韓国・フィリピン・ベトナム・マレーシア・ミャンマー・日本からユース集まり、作業グループに分かれ、今後の方針を話し合った。

たくさんの若者が気候変動に関心を持ち、行動している。1人の力ではどうにもならないことも、これだけたくさんの人たちが協力すれば、何かが変わるかもしれないと、強く勇気づけられた。

世界の NGO のネットワーク「CAN International」は、コペンハーゲン合意で必要な要素について、次のように考えている。この全ての要素を含んだ完全合意が成し遂げられるよう、現地入りした世界のNGOは協力的に活動を行っている。

「素晴らしい」合意内容 でなければならない

(eco12/7)抄訳

世界中が、コペンハーゲンでのこれからの2週間に注目している。そしてコペンハーゲン会議の成果を待ちわびている。この決定的な瞬間にあわせて、CAN(気候行動ネットワーク)は気候変動交渉における合意内容の本質的な要素について発表する。その内容は「素晴らしい(公正、野心的、法的拘束力をもつ)」合意でなければならない。ここコペンハーゲンの成果は、気候を守り、全ての国に対して公正でなければならない。特に、次のような約束を含んでいる必要がある。

気温上昇を2度未満に抑える

- ・大気中の温室効果ガスの濃度を最終的に350ppmに抑える。
- ・2013~17年の間に排出のピークを迎え、2050年には1990年比で少なくとも80%削減する。
- ・これらの目標の達成においては、気候変動を招いた先進国の過去および現在の責任と、途上国の持続可能な発展の権利を反映させなければならない。

先進国全体で、2020年に1990年比で40%以上の削減目標を設定する。

- ・先進国の削減目標は、過去および現在の責任、現在の削減能力に基づく。
- ・オフセットの使用を制限する。先進国が2020年までに1990年比で30%を国内削減すれば、オフセットの余剰はない。

・森林吸収源(LULUCF)による排出増あるいは削減の計算は、大気の実際状況を反映すべきである。

・森林や泥炭地の破壊にともなう排出のような、相当量の温室効果ガスが排出される分野の排出量は計上すべきである。

・LULUCFからのクレジットは、化石燃料の削減に必要な莫大な投資や対策を代替するものであってはならない。

途上国は、工業部門からの排出を抑制する対策に対して、先進国から支援を受け、今後のなりゆき(BAU)よりも大幅に削減すべきだ。

森林伐採・森林劣化による排出は、2020年までにゼロにすべきである。そのために、先進国は少なくとも毎年350億ドルを途上国に援助することが必要だ。

先進国は、ODAに追加して、2020年までに毎年1950億ドルを途上国への支援のために拠出すべきである。

- ・少なくとも950億ドルを、途上国の低炭素な開発、森林破壊の歯止め、農業、技術研究・開発に充てる。
- ・少なくとも100億ドルを、国際的な気候変動保険を含む、途上国の適応に対する無償援助に充てる。

ダブルカウンティング(二重計上)を回避する。

・先進国の排出削減目標を達成するために、先進国が途上国からクレジットを購入してオフセットをした場合には、途上国の削減目標の達成としても、先進国の途上国支援としてもカウントしてはならない。

・オフセットのための支出は二重計上されるべきではない。少なくとも、195億ドルの公的資金が、途上国の排出を

科学的に求められるレベルまで削減するために必要となる。そして、オフセットのための支出は、最小限の公的資金にすべきではない。

・気候変動の影響を受ける途上国の適応行動の枠組みは、予測可能で信頼性のある資金援助に支えられ、直ちに、大幅に拡大されるべきである。

コペンハーゲン合意は、法的拘束力、強制力をともなわなければならない。

・国際社会が環境によりよい内容を含む制度に合意するまで、強力な遵守メカニズムと広範な支援を有する京都議定書の第2約束期間が継続されるべきである。

・補足的な合意には、他の先進国と同程度の米国の排出削減への約束、包括的な資金援助への約束、そして途上国の削減行動が含まれるべきである。

日本政府代表団にNGOが参加

コペンハーゲン会議の初日、環境NGOの2名が日本政府代表団に入ることが正式に決定した。気候変動の国際交渉を行う政府代表団へのNGOの参加には、イタリア、デンマーク、インドネシア、フィリピン、南アフリカ、ネパールなど多数の事例があり、諸外国ではそれほど特別なことではない。

日本でも、環境分野の国際会議においては1992年のリオサミット、2000年のヨハネスブルグ・サミットで前例がある。だが、気候変動枠組み条約の交渉プロセスでは初めてのことであり、政権交代を機に、NGOの要請を受けて実現が図られた。これが政策形成への市民参加の道を開く一歩になることに期待したい。

Kiko COP15/COPMOP5 通信 No.1

2009年12月8日発行

伊藤めぐみ、川阪京子、佐藤由美、澤木千尋、田浦健朗

川阪 京子 現地携帯:+45-52-64-50-25